

直前難関国公立大英語

直前難関大英語 T

【2 回目】



問題

【1】

解答

(1) c (2) a (3) d (4) a

(5) たいていの医師が子供の中耳炎を耳の内部のみで発生していると考えるが、実際は生まれた時の直腸呼吸反射の異常、つまり体全体が原因であることもあるので、安易に抗生物質を投与するよりその本当の原因を突き止める努力をすべきだから。(110字)

(6) 「全訳」の下線部⑩参照。

(7) 「全訳」の下線部⑧参照。

(8) b

(9) 肺炎のような感染症において抗生物質を投与して発熱を抑えてしまうと、発熱により老廃物を燃焼させて体外へと放出する自然の治癒力までも抑制してしまいかねないから。(78字)

(10) 科学が対象を細分化して分析や証明を行う手法。(22字)

(11) d

解説

(1) 今日の医師はまるでキャンディーを与えるかのように（弊害を考えずに）投薬している、という趣旨になる。

(2) which = a local distillery, their = antibiotics'であることを掴む。

(3) It was not long before S V. 「まもなくSはVした。」

(4) replace A with [by] B 「AをBに取り換える」

(8) in turn 「入れ替わって；今度は」 cf. by turns 「かわるがわる；次々と」

(10) science has to first split the matter into parts and then proceed to prove each of these parts, ad infinitum. の部分をまとめる。

(11) 木を見て森を見ず、という科学的手法に対する批判が述べられていることから、dが適当。

全訳

最近あなたは薬箱を開けて、中に何が入っているか調べたことがあるだろうか。うがい薬、練り歯磨き、防臭剤に加えて、多分、琥珀色のプラスチックのびんが1つや2つ必ず見つかるだろう。そして、普通は、このうちの1つには何らかの抗生物質が含まれている。ついでにもう1つ尋ねるなら、あなたの家族の誰も丸1年医者に抗生物質を処方してもらわずに過ごせた最後の時はいつだったか思い出せるだろうか。

近頃は医者は患者に、薬をまるで無害なキャンディーのように渡している。しかし、私がかさね有害だと思うのは、抗生物質への強い選り好みなのだ。

私は体の自己治癒力を信じているが、だからと言って抗生物質を使用することについていかなるときも反対しているわけではない。まったくそうではないのだ。それどころか、私はそもそもシンシナティで抗生物質を処方した最初の医者の中の1人である。1940年代の後半のことだが、ニューヨークから来た生理学者が私に抗生物質を紹介してくれた。彼は抗生

物質の製造を考えていた地元の蒸留酒製造場を訪れていたのである。その時、私の患者の1人が末期の病にかかっていたので、私は新薬のことで、その生理学者から新薬をためすボランティアを探すように頼まれていることを話した。患者はボランティアになることに同意したが、それは患者も私も、そうしなければおそらく死しかないと感じていたからだ。抗生物質の効き目は素晴らしく、患者はまもなく体力を取り戻したのであった。

医者が病気の人を診断し病気を治療するために薬を処方すると、患者はすぐに、その薬は効くだろうと考える。つまり、「私の病気は重い」という患者のそれまでの考え方が「私の病気は治る」という新しい考え方にとって代わられるのである。だから、これから治療の過程が始まるのだと患者が考えられるように手助けしてあげれば、回復の過程は実際に始まるのである。

しかし、薬、特に抗生物質は必ずしもすべての病気への正しい答えではない。例えば、子供の中耳炎（耳の痛み）の普通の治療法は2、3カ月にわたって抗生物質を処方することだ。だが、これよりももっとよい治療法は医者が中耳炎を本当に引き起こしている原因を探り当てることかもしれない。

ほとんどの医者が抗生物質を使用する理由は耳の感染は耳自体の内部だけで起こっていると考えるからだ。しかし中耳炎の問題は、子供が生れる時に実際には始まっていて、その時点では直腸呼吸反射が首と肩の上部におけるリンパ液の排出に影響を与えているのだ。だから治療が必要なのは耳ではなく、体全体である。私の解決法は胸郭と骨盤をゆるめ、リンパ液が体全体を流れるようにし、次にグリセリンを数滴それぞれの耳に落してあげることだ。これで中耳炎はすっかり治ってしまうはずだ。

この治療法で私がかかなりの成功を収めてきたこと、また多くの医者がこんな治療法などありえないと考えていたことから、アリゾナ大学の関係者たちが私がこういった感染症の1つにかかっている子供を治療しているところをビデオで撮影することに決めたのである。そこで、数台のカメラが回っている間、私はいつものように患者の少年に治療を行った。④治療は大成功で、少年のかかりつけの小児科医ですら、6カ月が経過したのち、少年が治療後は中耳炎にかからなくなったことをやっと認めたのである。私が治療をする前は少年は平均して6週間に一度は中耳炎をぶり返していたのである。

長年にわたって私はこの治療法で何百人という子供たちを治療してきたが、子供たちのほとんどすべての者が薬の悪い影響を受けることなく回復したのである。

抗生物質の問題点は、それが不必要な場合にも使用されるということに限られるわけではない。私は、抗生物質は一般大衆が自分の健康を根本から心配しなくなったことの間接的な原因になっていると思っている。第二次世界大戦が終わった時、医者たちはこういった薬をたくさんもってアメリカに戻ってきた。そして四六時中人々に、医学は万病に効く奇跡の薬をついに発明したと言いふらしていた。⑧人々は医者言葉を信じ、自分の健康に以前ほど注意を払わなくなってしまった。万能薬が気軽に使え、いつでも手に入り、比較的安価なのだから、健康のことなど心配する必要などない、というわけだ。

ところが、体の中のバクテリアは抗生物質に対する抵抗性を獲得し続け、そのため今度は医者が抗生物質の投与量を増やさざるを得ない事態になってしまった。現在の薬に対していまや耐性をもつようになっているある種の連鎖球菌の場合と同様に、抗生物質もやがてうま

く効かなくなるだろう。だから化学者や生理学者たちは現在の薬にとって代わる新しい抗生物質を見つけ出そうと努力しているのだ。

抗生物質を大量にとりすぎるとどんな種類の害が生じるのか誰にもわかっていないのに、抗生物質を気ままに利用することは、それだけの危険をおかす価値はあるのだろうか。こうした薬の影響を動物に投与して調べているある人が私にこう教えてくれた。ある抗生物質が体中をめぐる跡を追っていくと、その70パーセントがどうなったかを突き止めることができたが、他の30パーセントは長期的にもどこに行ってしまったのかわからなかった、と。私自身は、症状をかなり長い間抑制しているように思えることからして、抗生物質は免疫組織を破壊している可能性があるのではないかと推測している。

抗生物質のこのような抑制的特徴は問題となる点でもある。あなたが肺炎のようなある種の感染症にかかった場合、肺炎が発病から衰退へと通常の過程を進むのにまかせるというより、むしろ病気を抑制するために抗生物質が処方される。結果として一時的に病気が緩和されるものの、病気がいつかまた関節炎のような別の形で再燃する可能性が高いのである。

このごろは、熱で倒れると、まっさきに言われることは熱を取り除きなさいということだ。私が整骨療法の大学に通っていた頃は正反対のことを言われた。つまり、発熱によって現れようとしているいっさいの症状に対し体が反応するように助けてやりなさいと言われたのだ。華氏103度（摂氏39.4度）までの熱なら体によい可能性がある。体は細胞という形をとって老廃物を絶えず燃焼している。それは細胞がいつも死ぬ途上にあるからだ。もしこれらの細胞がいつもの決まったやり方で体を離れない場合には、細胞は蓄積し始めることになるから、そこで母なる自然が熱をつくりだして、死んだ細胞を焼却し、処理過程を回復するのである。熱はまさしく体が必要としているものと言えるだろう。

可能な時はいつでも、抗生物質は避けなさい。華氏103度（摂氏39.4度）以下なら、どんな薬もふさわしくない。確かにこういった薬が体を生かしておくために必要なときはある。私自身、薬がなかったら今ここにはいないだろう。何百万人という他のアメリカ人だって同じだろう。しかしあなたが本当に病気を治したいなら、あなたの全存在に栄養を与えなければならぬし、そのための最もよい方法は鍼灸やハーブや整骨療法の手技といった生命力に働きかける代替療法にあるのだ。

今日、私たちは自らを科学的であると誇らしげに思っている世界に生きている。すべての事柄が、人に受け入れられるためには、科学によって立証されなければならない、また何かを証明するには、最初に物事を部分に分割し、次にそれらの部分の1つひとつを際限なく証明する過程に進んでいく。自分がしていることにあまりにも深入りすぎて、例えば、体には左ひざの関節以外のところもあることを忘れてしまった専門家を私は何人も見てきた。

こうした細分化の過程が続き、またメディアが特定の試みや実験、他のテストの結果を報道していくと、一般の人々も個々の部分に分割していくこういった研究のすべてに夢中になって、自分自身の内面にある全体性のことを忘れてしまうのだ。

私たちは、医者も患者も、みんながその全体性に戻らなければならない。確かに、部分も重要ではあるが、全体像を把握していなければ個々の要素を理解しても何の役にも立たないだろう。この世界には統計学者の描く鐘形曲線では捉えきれないものがあるのだ。

【配点】 80点

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| (1) 4点 | (2) 4点 | (3) 4点 | (4) 4点 |
| (5) 16点 | (6) 14点 | (7) 8点 | (8) 4点 |
| (9) 12点 | (10) 6点 | (11) 4点 | |

【配点の目安】

- (5) ①たいていの医師は子供の中耳炎を耳の内部のみで発生していると考える (4点)
 ②しかし、実際は生まれた時の直腸呼吸反射の異常、つまり体全体が原因であることもある (6点)
 「体全体が原因」ということにふれていないもの - 3点
 ③よって、安易に抗生物質を投与するよりもその本当の原因を突き止める努力をすべきだから (6点)
 語尾が「～だから」のように理由を示す書き方になっていないもの - 1点
 ①, ②, ③の観点を満たしていないものは、それぞれ減点。
- (6) 以下のように4つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
 ① the treatment was successful enough that even the boy's pediatrician eventually admitted (4点)
 successful enough that の構造を正しく訳出できていないもの - 2点
 ②, after six months had passed, (2点)
 admitted を修飾する副詞節として解釈できていないもの - 2点
 ③ that the child hadn't had an ear infection since (4点)
 that ～ が admitted の目的語として解釈できていないもの - 2点
 since (the child had got treatment) と解釈できていないもの - 1点
 ④, although before, he had been averaging one every six weeks (4点)
 he had been (infected) の構造が読み取れていないもの - 2点
- (7) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
 ① People believed their doctors (3点)
 ② and stopped paying as much attention to their own welfare (5点)
 and が believed doctors と stopped ～ を並列しているから見抜けていないもの - 2点
- (9) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
 ①肺炎のような感染症において抗生物質を投与して発熱を抑えてしまうと (4点)
 ②発熱により老廃物を燃焼させて体外へと放出する自然の治癒力までも抑制してしまいかねないから (8点)
 「短期的には発熱が治まるが、関節炎などを伴って病状が悪化しかねないから」としたもの - 4点
 語尾が「～だから」のように理由を示す書き方になっていないもの - 1点

(10) ①科学が対象を細分化して (3点)

「細分化して」に触れられていないもの - 1点

②分析や証明を行う手法 (3点)

【2】

解答

Typical Japanese office workers go to work early in the morning before their kids are off to school and they come home late at night after their kids have gone to bed. As they spend so much time on work, many of them, especially middle-aged men, simply don't know what to do with their occasional holidays.

別解

Generally speaking, Japanese office workers leave home early in the morning before their children go to school and come home late at night after their children have fallen asleep. In fact, they devote so much of their lives to work that many of them, middle-aged workers in particular, are quite at a loss how to spend their occasional days off.

【配点】 20点

【配点の目安】

以下のように3つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。

①一般に日本のサラリーマンは、朝早く子供たちが学校に出かける前に家を出て、夜遅く子供たちが床についてしまってから帰宅する。(10点)

②このように多くの時間を仕事に取られているので、(4点)

③彼らの多く、特に中高年の者は、たまの休日をどう過ごしていいかまったくわからないのである。(6点)



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--